



猛暑の兆し…？

4月の平均気温（勝沼）は、3月までとは一転し、昨年を1.5℃上回る16.5℃でした。「史上最高の暑さとなった2023年」よりも気温が高いということはやはり今年も猛暑になるのでしょうか…。

果樹類も4月になり生育速度がどんどん進み、出荷時期も昨年とほぼ変わらないかもしれないとのことです。

今年も猛暑の夏となる心づもりをしておいた方が良さそうですね。

神金振興会・第1回代表者会

5月9日に神金振興会第1回代表者会が開催されました。昨年度事業会計報告、今年度事業予算計画などを話し合い、新たな会長や事務局長などを確認しました。



◆高齢化率48.24%の現実◆

振興会の終わりに、小野市議会議員から報告がありました。その中で、5月1日現在の神金地区は高齢化率48.24%となり、地区住人の二人に一人は高齢者となっているという説明があり、五年後・十年後の神金地区の維持についての議論や各団体の見直しなどが急務であるということでした。実際に神金小PTAでは世帯数の減少に伴い、今年度から組織改革を行っていますが、様々な団体もこれまでの慣例に縛られずに思い切った改革が必要な状況ではないかということです。

何もせずにいると限界集落どころか消滅地域になってしまうと議員は訴えていました。

神金トピックス&ニュース

社会福祉協議会神金支部総会

5月7日、社会福祉協議会神金支部総会が開催されました。今年度も老人福祉事業や組織強化事業に取り組んでいくことが決定されました。



ママさんバレー部の活躍



昨年度まで神金A・Bの2チーム編成で登録していましたが、新加入者が増えず年齢層が上がる状況で、各種大会への参加も困難になってきたので、今年度より「神金A」として1チーム体制で活動をスタートしました。

その結果、年度当初から好成績でスタートすることができました。

4/21 第51回会長杯山梨県ママさんバレーボール大会

2部Aパート 準優勝

4/24 第47回コカ・コーラボトラーズジャパンカップ・ママさんバレーボール大会
2部 第3位

神金の歴史

地元の歴史研究家でもある故飯島卓郎氏が、神金小学校PTA会報「ふもと」に執筆し寄稿した「神金の歴史」をシリーズで紹介します。

新青梅街道 五

大菩薩越えを避けた新青梅街道は、柳沢峠越えか黒川谷開鑿かで紛議は続き決定に手間取った。県の係員には柳沢峠を越すようにと丹波山村の強い要請もあり、葡萄沢から黒川谷を経て三条に至り丹波の奥秋に至る道路こそ道のりも工事費も半分で済む見込みなので、この道を計画した。

この計画は急な思いつきではなく幾多の訴訟問題等を経た丹波・小菅の永い念願であった。黒川谷の(開開鑿)となると、一之瀬高橋部落は陸の孤島になることを恐れた新青梅街道の主唱者であり地元の最高責任者でもある矢崎拾兵衛は強く柳沢峠越えを主張した。しかし、黒川谷経由は道のりも短く工事費も軽少で済む利点を挙げ、柳沢峠越えは距離も工事費も倍以上かかり、橋梁も多く河川に添った道路で砂礫の箇所が多く出水のたびに欠損が甚だしい等の不利な条件を示されたので、知恵者でも権力者でもあったが流石にこれには反抗するすべはなかった由である。自分の管轄する一之瀬高橋を見殺しにもできず無理を承知の上で何とかしたい一念から第三案を提出した。時を稼ぐための手段であったものと思う。

この道は、上小田原の上手林から小浅原を経て高芝御殿と通称する高芝山（一五一八）の中腹から三窪を通り高橋に至る道は最短距離であり、三窪の手前を右折すれば柳沢峠である。土質は粘土質が多く橋梁は少なく大小二つだけで水害のおそれは殆ど無いに等しい道である。途中で天狗社があることから川は高芝川であるが天狗沢ともいわれている。この道は昔から高芝口と称し一之瀬高橋に通ずる主要道路であり、武洲の三峯神社への参詣はこの道が利用された。萩原口留番所が設けられて以来通行差し止めになった道である。

昔から主要道路の呼び名には口という字が付いている。鎌倉街道の御坂口、甲府熊谷線を雁坂口、大菩薩越えの萩原口等々何れも口が付いている。高芝口もこの地方では使い馴れた呼び名で、現在も老人の口からは時折聞かされることがある。この道には古い数多くの歴史が刻まれている。

*次ページに続く

神金の歴史

黒川金山とは、一之瀬高橋約二萬町歩の萩原山全域から金が採れたのであって、総称して黒川金山と言っている。武田信玄の時代になって地下に埋蔵されている鉱石から金を採ることが考えられたが、それ以前は川砂から採る方法しかなかった。たまたま黒川谷に純度の高い金鉱が発見され、大量の金が産出されたので金山が一躍黒川有名になり、一之瀬高橋を代表することになったが、黒川金山は鶏冠山の麓黒川谷の一部である。

伝説では大同三年（八〇八）から金は産出されたといわれるが、下萩原の平城にいた三枝氏、下小田原の福蔵院の地に館し後小田原に移った安田義定、千野に館をもった武田信成（向嶽寺の開基）、武田信春（柳沢峠慈徳院の開基）、信玄の時代黒川谷に鉱脈を発見し葡萄沢からの道を開削するまで数百年にわたって高芝口を利用したものである。とりわけ、下小田原に館があったと言われる甲斐源氏の武将安田義定と深いつながりのある道である。

愛宕山の山麓に浜松という地名があり、ここに浜松神明社という社が建てられている。ここが高芝口の起点である。旧青梅街道も神明社の参道に連なっている不可思議な事実がある。安田義定は源義経の副将軍として平家追討に功を挙げ遠江国（静岡県の西部）の国主に任ぜられ遠江守として治めていた首府である浜松の名を故郷に移し浜松神明社を建立したのである。



浜松神明社